

学校だより



神津の学びや

令和7年3月15日 創立150周年



伊丹市立神津小学校

校長 米田 博一

令和6年11月22日号

学力向上プラン（学力向上のための取り組み）について

令和6年9月2日号でお知らせした「全国学力・学習状況調査」結果や子どもたちの実態から、学力向上に向けた今後の取り組みについてお知らせします。

また、ご家庭に協力いただきたいことについても記載しております。子どもたちの心豊かな成長や学力向上のため、学校と家庭との連携はとても大切です。ご協力をよろしくお願いいたします。

非認知能力の育成

- ・ねばり強さ、想像力、自己肯定感などの非認知能力の育成を重視する。
- ・主体的な姿勢を育むために、励ましや前向きな言葉かけをし続ける。
- ・「わかった」「できた」という経験を積ませる。
- ・総合的な学習の時間を通して、自ら探求したり、企画したりして、最後までやりきる経験を積ませる。

基礎基本の徹底

- ・オリジナルの国語プリントを積極的に活用し、力につなげる。
- ・放課後学習のあり方を見直し、基礎基本の定着につなげる。
- ・具体物や半具体物の操作、言葉の動作化等の体験を重視し、抽象的な課題への思考につなげる土台づくりをしていく。
- ・一人学びの時間を積極的に取り入れることで自分自身の考えを持たせ、グループ・全体学びでさらに考えを深めさせる。

学習習慣の確立

- ・がんばり週間を継続し、現在の生活習慣や学習習慣の状況を見える化し、その改善・向上に活用する。
- ・図書館神津分館と連携し、家庭への働きかけなどにより、読書への意識を高める。
- ・家庭での子どものゲームや動画・テレビなどとの付き合い方について、家庭と連携を図るとともに、啓発をする。

授業づくりについて

- ・学びの必然性を意識した授業づくりを行う。
(子どもが自ら学びに向かう課題設定や授業づくり)
- ・板書やピクトグラムで、学習の見える化をはかる。
- ・自分の考えを安心して発言できる支持的風土のある学級づくりをする。
- ・「話し方」「聞き方」について提示するなどにより、聞き合う力を高める。

非認知能力とは？

IQや学力テストといった数値で測定できる能力のことを「認知能力」といいます。それに対して、数値での測定が難しい自己肯定感、コミュニケーション力意欲、やり抜く力などを「非認知能力」といいます。

「非認知能力」を育てるために大切にしてほしい6つのかわり

- 励まし、勇気づけるかわり
- 「わかった」「できた」の積み上げ
- 自己選択・自己決定の尊重
- 結果より経過を大切にした指導
- 小さい失敗経験を大切にする
- 先回りし過ぎず見守るかわり
(失敗も経験)

ご家庭にお願いしたいこと

- ・家庭学習に主体的に取り組めるよう、また、子どもがチャレンジする気持ちや自己肯定感が高まるように、励ましや前向きな言葉かけを心がける。上記の「6つのかわり」大切にしましょう！
- ・言葉づかいを丁寧にし、場に応じた言葉づかいや話し方を教えていく。(子どもは大人の鏡です！)
- ・睡眠をしっかりとらせる。(小学生に必要な睡眠時間は9～12時間とされています)
- ・読書に親しむ環境づくりを行う。(例：親子で一緒に本を読む、親子で伊丹図書館神津分室に行く 等)
- ・子どものゲームや動画・テレビなどとの適切な付き合い方について、親子で考える。
(例：子どもと一緒にルールや使用時間などを決める 等)